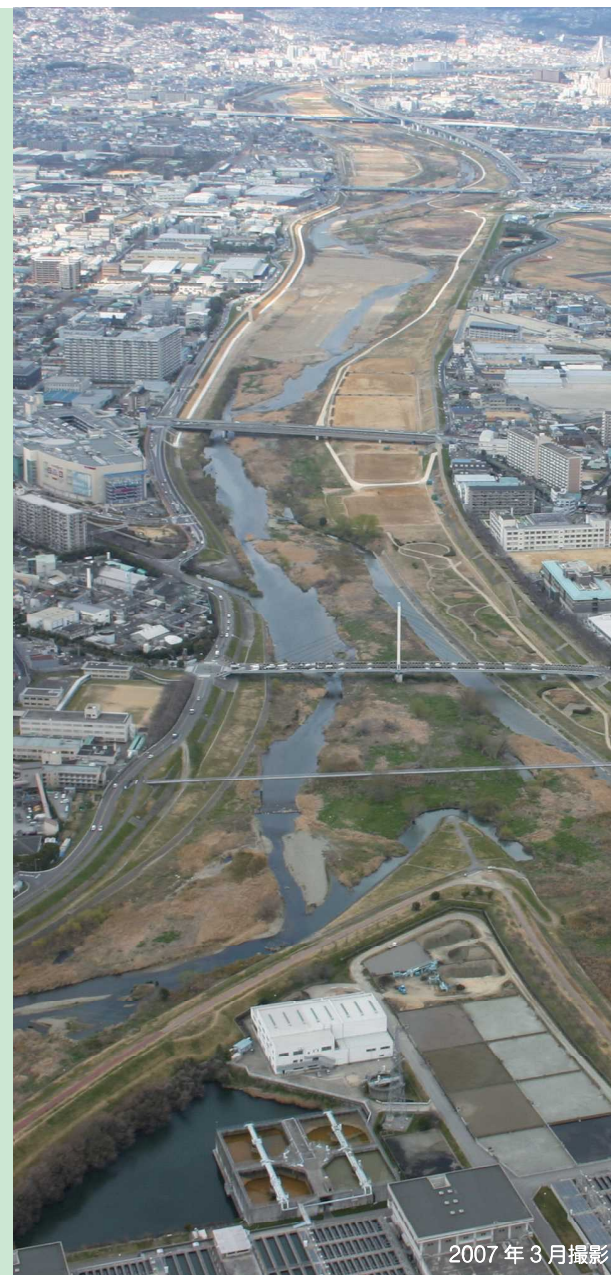


7

いろいろな生き物に会える！伊丹の川づくり

これまで、洪水から人や町を守り、川のまわりの土地を利用しやすくするために、川岸をコンクリートで固めたり、川の流れをまっすぐにしたりする工事が続けられてきました。自然環境が大きく変わるなかで、昔から川にいた生き物を守るための取り組みが行われています。



2007年3月撮影

1年		4年	
2年		5年	理科「流れる水の働き」
3年		6年	理科「自然とともに生きる」

猪名川では、昔の川の環境を再現するため、小石や砂が広がる川原づくりや、市民団体などいっしょにアレチウリなどの駆除、チガヤ草原の回復、ヒメボタルの保護活動などが行われています。



カヤネズミの巣 チガヤ、オギ、ススキなど、イネ科植物の葉を編んで、ボールのような形の巣をつくります。



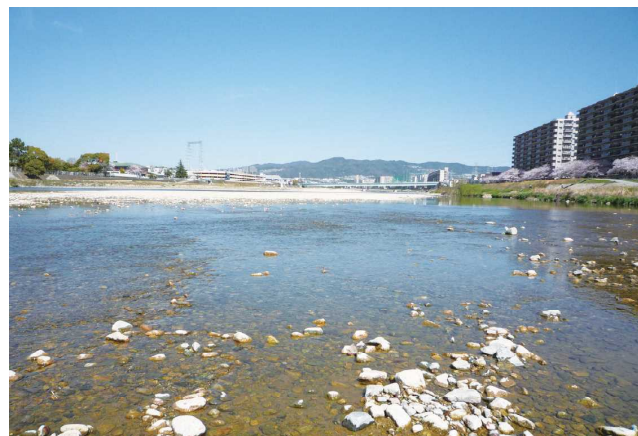
コチドリ（後ろ；♂、手前；♀）小石や砂が積もった川原に小さくほみをほって、巣をつくります。



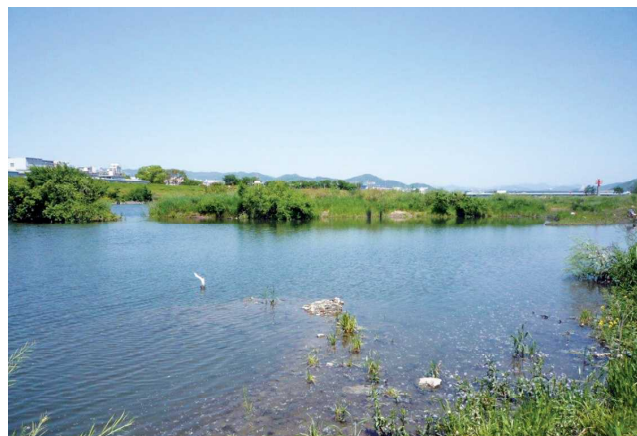
身近な川魚オイカワ 流れがやや速く、日光が川底まで届き、石につく藻がたくさん育つようなところにいます。

市内には、武庫川と猪名川をはじめ、天王寺川、天神川、駄六川などの川が流れています。それぞれの川では、行政（国・県・市）と市民が共同で、もともと川にいた生き物たちが生活できる環境の再生に取り組んでいます。

◎生き物がすすめる川づくり



武庫川 アユが卵を産む場所をつくるために、川底の手入れが行われています。また、川の段差を魚が移動しやすいように、通り道が作られています。

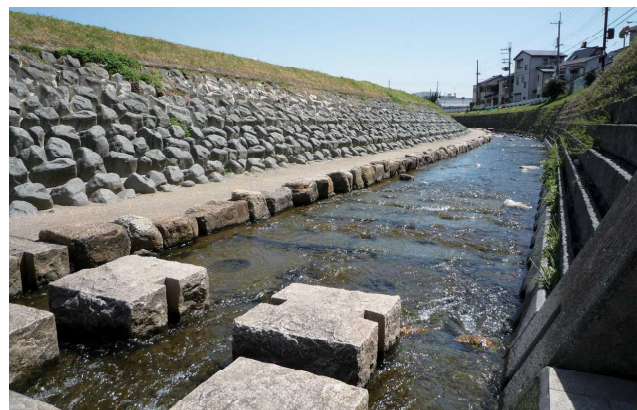


猪名川 川には、水位変化で水中に沈んだり陸になったりする場所があります。川の生き物の大切なすみかですが、最近、そのような場所が減り、水が流れるところと乾いた草原にはっきり分かれています。

◎自然とふれあえる川づくり



天神川と天王寺川の合流付近 水の流れが少ないとき、川の生き物観察によく利用されています。ギンブナやタモロコ、メダカ、アメリカザリガニなど、いろいろな生き物が見られます。



駄六川 ところどころに階段があります。川に降りて水に親しむことができますが、天気によって急に水が増えることがあります。川に行くときは、必ず天気をチェックするようにしましょう。

◆ヒメボタルの宝庫

町の中を流れる川とは思えないほど、林の中や草原に、たくさんのヒメボタルがいます。毎年、5月にはヒメボタルの観察会が開かれています。



ヒメボタルの幼虫 水中ではなく、植物におおわれた地面近くのやわらかい土の間にすみ、貝などを食べています。



ヒメボタルの成虫♀ メスは飛べないため、地面近くでポワッと光っています。



ヒメボタルの成虫♂ 飛びながら、ピカピカと黄色っぽい光を出します。成虫の寿命は7日ほどです。